

平成30年第2回定例会一般質問通告書

- 通告1番 星 喜美男 議員  
質問方式 一問一答  
質問事項 子どものいじめ防止等の対策について  
質問相手 町長・教育長  
質問の要旨 文部科学省が昨年10月26日に公表した平成28年度の「児童生徒の問題行動・不登校調査」で、宮城県は、児童生徒1000人当たりのいじめ認知件数は全国で3位、不登校の割合は全国で最も高いという結果となった。  
いじめはどの子どもにも、どこの学校でも起こり得るものであり、同時に誰もが被害者にも加害者にもなり得る可能性がある。このようないじめを防止して、次代を担う子どもが健やかに成長し、安心して学ぶことができる環境を整えるのが全ての町民の役割であり責務だと思う。一人一人の尊厳を大切にし、相互に尊重しあえる社会の実現に向けて、いじめを許さない文化と風土を社会全体でつくり、いじめの根絶に取り組まなくてはならないものと思ひ、次の点を伺う。
- 1 この調査が行われた、28年度はいじめの認知状況は。
  - 2 町、学校、保護者、地域社会が連携して未然防止に努める体制が必要と思うが。
  - 3 インターネットによるいじめの把握と対処方法は。
  - 4 いじめの早期発見及び対処のマニュアル化は。
  - 5 学校いじめ防止基本方針の策定状況は。
- 通告2番 須藤 清孝 議員  
質問方式 一問一答  
質問事項 戸倉地区の地域創生について  
質問相手 町長  
質問の要旨 復興も加速し発展期を迎えるなか、戸倉地区においては、他地区に比べ目に見える実感が少なく感じる現状で、住民は黙して踏ん張っています。  
さらに、三陸道の延伸に伴いストロー現象の影響による当該地区の賑わいが薄いと感じている住民の声がある。  
これからの発展期に向け、戸倉地区の賑わいと活力ある地域づくりの方向性と振興策をどのように考えているか。
- 通告3番 佐藤 雄一 議員  
1件目  
質問方式 一問一答  
質問事項 入谷小学校周辺道路の拡幅整備は  
質問相手 町長  
質問の要旨 入谷小学校は、入谷地区の指定避難場所となっている。  
緊急車両と人々が安心して通行ができる道路が必要と考えるが、整備計画

について伺う。

2 件目

質問方式

一問一答

質問事項

鏡石橋の進捗状況は

質問相手

町長

質問の要旨

橋の隅切り、拡幅改修工事は、技術的な課題もあって工事施工が困難な状況であるとの報告を受けたが、その後の進捗状況と今後の町の考えを伺う。

通告 4 番

佐藤 正明 議員

質問方式

一問一答

1 件目

質問事項

町道整備の現状と現道管理計画について

質問相手

町長

質問の要旨

既設道路の台帳も作成され、道路状況は確認済みと思うことから、今後の整備計画や現道の維持管理について、次の点を伺う。

- 1 地域生活の重要路線道について、整備計画を考えているか。
- 2 震災や復興工事で町道の破損箇所がある。整備の考えは。
- 3 現道の維持管理状況と、今後の管理計画を伺う。

2 件目

質問事項

漁港施設の現状について

質問相手

町長

質問の要旨

震災で被災し漁港施設が整備されたが、後に施設の隆起が発生し作業の不便な状況が続いていることの改善と進捗。また、防潮堤工事が本格的に始まる用地問題や計画変更が生じた場合などの対応と対策について、次の点を伺う。

- 1 漁港施設の昇降施設設置などの進捗状況は。
- 2 工事施工で一番問題になるのは用地問題であるが、現在の状況は。
- 3 大きく計画変更が場合の対応と対策について伺う。

通告 5 番

倉橋 誠司 議員

質問方式

一問一答

1 件目

質問事項

交流人口の拡大について

質問相手

町長

質問の要旨

- 1 平成 29 年までの交流人口の人数は。
- 2 平成 30 年の目標は。
- 3 うち外国人の人数は。
- 4 目標に向けた今後の施策は。

2 件目

質問事項

公共交通について

質問相手

町長

質問の要旨 BRTを背骨に町民バスを肋骨にとの考えだが、デマンドタクシーの検討は。

3件目

質問事項 職員の人事について

質問相手 町長

質問の要旨 1 役場職員の人事異動の決め方の基準は。  
2 配置人員数の増減の決め方は。  
3 平成30年度増減は。

通告6番 千葉 伸孝 議員

質問方式 一問一答

1件目

質問事項 震災後の検証としての町長の職員改革とは

質問相手 町長

質問の要旨 3. 11の大震災から7年が経過し、多くの職員の死から職員の震災復興への業務は多忙を極めました。町長は職員の減少にどのような人員確保と、厳しい環境の中でどのように職員に指導と心のケアを行ったのか。

震災から7年目を迎え、新庁舎の完成に職員の気の緩みはないか。派遣職員の減少に伴う、地元出身職員などの、公務員としての「町民への奉仕精神」を、どのように指導・育成教育していくのか。

今の職員の現状と問題対策は。

2件目

質問事項 観光としての保呂羽山の公園と道路整備

質問相手 町長

質問の要旨 1 震災後に津波は水尻川を上り、支流の保呂毛地区にまで大きな被害を及ぼした。あれから7年が経過して、保呂毛橋からの「保呂毛線」の震災復旧の工事はどこまで進んでいるのか。新たな観光地としての歴史や遺跡としての価値は大きく、町の公園までの接続道路は余りにも狭く曲がりくねり、地区住民の安全通行にも危険が多い。今後の整備の予定と、早期完了の見通しは。

2 地区住民は約55世帯から40世帯まで減少している。保呂羽神社例大祭の為に道路の清掃などは今も地区民がその役割を果たしている。地区への管理委託謝金の増額の考えは。

通告7番 後藤 伸太郎 議員

質問方式 一問一答

質問事項 スポーツ振興に支援を

質問相手 町長

質問の要旨 震災後、町内ではスポーツに打ち込める環境になく、町民の体力低下、生活習慣病の蔓延などが危惧されてきたが、しおかぜ球場の改修などハード整備も進んできている。2020年には東京オリンピック、パラリンピックが

開催されることもあり、全国的にもスポーツ振興の機運が高まっているが、今後2年間を強化期間と位置づけ、町民の健康増進を推進してはどうか。

- 1 町内のスポーツ施設の稼働状況、復旧状況は。
- 2 2020年に向け、大きなイベントの誘致や独自開催に取り組んでは。
- 3 スポーツ振興に取り組む団体等へ、支援の拡充をしては。
- 4 町民運動会、ベイサイドマラソンの開催は。

通告8番 及川 幸子 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問事項 交流人口に欠かせない道の駅（海の市）設置について

質問相手 町長

- 質問の要旨
- 1 三陸道延伸に伴う観光客誘致やインバウンド対策は。
  - 2 歌津魚竜館と魚竜化石展示場の復旧を検討しては。
  - 3 海の幸・山の幸のおもてなしによる、販路拡大と体験交流を考えては。

2 件目

質問事項 震災遺構とまちづくりについて

質問相手 町長

- 質問の要旨
- 1 県有化された防災庁舎震災遺構問題は、いつ頃協議決定となるのか、その見通しは。
  - 2 高野会館を当町の震災遺構としての考えは。
  - 3 ネイチャーセンター建設は、戸倉公民館よりは、志津川まちづくり協議会より提案された海のそばが観光面からも適地と思われるが。

3 件目

質問事項 新しい給食センター建設について

質問相手 町長・教育長

- 質問の要旨
- 1 建設場所は、現在も45号線沿いのあの場所で良かったのか。また、工事費は妥当な金額であったのか。
  - 2 調理業務委託業者の確認と職員（社員）体制は。

通告9番 今野 雄紀 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問事項 情報発信の充実をせよ

質問相手 町長

- 質問の要旨
- 1 「みなさんぽ」の費用対効果の検証。
  - 2 近隣のFMラジオと連携して、行政情報、観光情報等の発信。
  - 3 中継局の誘致による受信エリアの拡大。

2 件目

質問事項 小学校の英語教育義務化について

質問相手 教育長

- 質問の要旨
- 1 3・4年生の英語の必修化について。
  - 2 5・6年生の英語の授業への取り組み。
  - 3 中学校での対応。

3件目

質問事項 滞在型の観光政策

質問相手 町長

- 質問の要旨
- 1 「民泊」、「農泊」への取り組み状況。
  - 2 木質再生エネルギーを活用した公共入浴施設の整備。

通告10番 菅原 辰雄 議員

質問方式 一問一答

1件目

質問事項 地方創生への取り組みの現状と課題

質問相手 町長

質問の要旨 平成26年度に第2次安倍内閣の政策として、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げるとしてスタートした一連の政策に伴い、当町でも官民連携推進室を立ち上げ「南三陸町総合戦略」を作成し、課題解決に向けて歩んできたものだが、平成26年度から31年度までの5ヶ年計画の3年目に当たり、地方創生への取り組みの現状と課題を伺う。

2件目

質問事項 町づくりについて

質問相手 町長・教育長

質問の要旨 発災から7年になり、被災した方々もそれぞれの住居も定まり、公共施設整備も進んでいる現状に安堵感を覚えるものだが、気になる次の点について伺う。

- 1 旧志津川市街地の嵩上げした用地の活用状況と活用策について伺う。
- 2 旧松原運動公園が復活するものだが、施設整備の中で部分的で良いが上屋設置も必要と考えるが。
- 3 入谷公民館を移転新築をすべきだが、将来的に児童数減少を見据え、校舎の一部の活用も考えては。